

■ 特別鼎談「北海道の新たな港湾振興に向けて」開催概要

北海道総合政策部 交通政策局 物流港湾室 工藤一浩

北海道では、2月7日、札幌市において国土交通省交通政策審議会港湾部会委員の「木場弘子」氏（キャスター・千葉大学客員教授）を招き、「田村 亨」氏（北海道大学大学院工学研究院教授）と「野宮範子」氏（フリーアナウンサー）による特別鼎談「北海道の新たな港湾振興に向けて」を開催、港湾管理者、物流関係者、一般の方など170名の御参加をいただきました。



まず、田村氏から、「北海道は、酪農が主要産業の一つ。飼料など港に入ってくるものが大きい、いかに出すものを活発化させるか」を本道港湾の課題としてあげ、新たなヒントとして「根室のさんまや沼田町の雪中米など、地域の農協など割と小さな単位で、独自でターゲットを絞って輸出拡大に取組む例がある。東南アジアなど、世界へ広がるチャンスを各港の側からどんどん発酵させていってほしい」といったお話をいただきました。

また、北海道の地理的優位性を示す例として、サハリンへの定期フェリーを利用した道の物流拡大の取組やLNG 船が石狩湾新港に寄港する様子の他、近年、急速に関心が高まっている北極海航路の映像を紹介。



木場氏は、一昨年サハリンを視察した際の印象を述べたうえで、「東京までなら4～5日かかるが、1日で到着するのは、素晴らしい」と語り、「石狩湾新港は風力発電やLNG 火力発電所の計画など、港で発電まで完結させるプロジェクトもあり、これからのエネルギー供給の港湾利活用のモデルになるのではないかとのお話がありました。また、北極海航路について田村氏は「将来スケールの大きな話。50年～100年後の実用化を見据え、仕立てていくべき。」と強調。その際は、ハード整備を進めるだけでなく、「環境についての先進事例や北方圏と似ている文化、生活」など、北海道の優位性をいかに発信するか、その必要性を説き、木場氏もそれに応え、「子供の頃のノルウェーに在住し、おいしい米やのりが食べたくて船が着くのを心待ちにしていた。」と語ったうえで、「北極圏に暮らしている方々、家族のニーズやどんなことを考えているか、といったソフトな発想を持ちながら、モノを

運ぶことや、どう運ぶのが効率的なのかを考える」という生活者の視点の大切さを述べられました。

また、「大震災を踏まえた本道港湾の役割」について、木場氏は、震災時、在住する浦安市においても食料品が不足した様子を語り、「初めてモノが滞る怖さを体験。太平洋側の港の代替として、日本海側と北海道に助けていただいた。これからは港に限らず一極集中から分散へ、そして、それぞれが機能を果たせるように力をつけて欲しい」と述べ、田村氏も「北海道のためではなくオールジャパンのためにも、港湾の耐震化など強靱な防災拠点をつくっておくべき」と、両氏とも本道が果たすバックアップ機能を強調されました。また、これからの港湾の維持管理に関して、田村氏は「港全部にお金をかけて、機能の維持管理を充実させるのではなく、施設の劣化をマネジメントしたうえで、将来的な使用頻度なども勘案し、行政と利用者・市民とが一体化した組織が判断するアセットマネジメント（資産管理）が理想的」とし、他県と異なり北海道は市町村の港湾管理者が多いからこそ「現場に直結し、現場



感覚をもちスピード感を持って対応可能」等のお話をされました。木場氏も「何もかも完璧にハードをそろえる〈防災〉意識から〈減災〉の意識へと変わり、維持管理や整備もある程度メリハリが必要」とし、それをソフトで補う必要性を語り、「行政だけに頼らず自らが避難所への所要時間を計っておくなど、忘れがちな防災への意識付け」といった住民の役割もお話されました。

最後に、野宮氏から、「食、観光、地理的優位性といった北海道の持つ可能性を生かした地域の方々の取組や港を使う意気込み、行政も応え、使い勝手の良い港湾を整備し、利用者も市民も皆が連携して、工夫しながら活用する。そういう積み重ねが今後の道の港湾振興の方向性ではないか」とのお話をいただきました。



道では、今回の^{ていだん}鼎談の内容を参考にしながら、平成21年に策定した「北海道の港湾振興ビジョン」の改訂など、本道の新たな港湾振興に向けた検討につなげたいと考えています。

最後に、野宮氏から、「食、観光、地理的優位性といった北海道の持つ可能性を生かした地域の方々の取組や港を使う意気込み、行政も応え、使い勝手の良い港湾を整備し、利用者も市民も皆が連携して、工夫しながら活用する。そういう積み重ねが今後の道の港湾振興の方向性ではないか」とのお話をいただきました。

道では、今回の^{ていだん}鼎談の内容を参考にしながら、平成21年に策定した「北海道の港湾振興ビジョン」の改訂など、本道の新たな港湾振興に向けた検討につなげたいと考えています。

